

問題解決思考法

これまで以上に利用したくなるような図書館

c 1249173 五十嵐葉琉

私が現状の図書館を利用して感じていたことは、一人で利用した時の場合たくさんの種類の座席がありとても利用しやすいと感じた。例えば、周りの人の目が気になり集中できない人用に独立していて視界を区切れるような板があるような座席や一般的な大人数が座れるような大きいテーブルなどがある。また、複数人で話し合いがしたいというような人達用にも完全に一部屋ずつ分かれている部屋もあり。たくさんのニーズに対して答えられている完璧といってもよいような図書館であると感じた。しかし、図書館内で本を読んだり作業をしたりしたいか考えるとそうは感じなかった。

それは、図書館で読んだり作業をしたりするよりも家で普段通りしたほうが楽だと感じるからである。なぜなら、どの座席もどの部屋も机と椅子を使っており楽な姿勢や自分が落ち着く姿勢というのがしにくくまたはできなくなっていると感じた。例えば、普段家で作業をするときはあぐらをかいてしているが、椅子があり机が高いので地面にあぐらをかいて作業をできないことや家ではゴロゴロしながら本を読んでいるがそのようなことができるスペースがないなど。家でするときの方が楽であると感じることが多いと考えた。

そこで、私は現在大人数使える部屋の一つを土足厳禁にしてこたつと座椅子を置き地面に座って作業をでき、収容人数は最大で4人とあまり多くしないことで十分に一人ひとりのスペースを確保できるようにすることがよいと考える。こたつにすることで冬の寒い時期の図書館の目玉にもなり、まるで実家のような安心感が得られよりリラックスして作業ができるのではないかと考える。また、ヨギボーのようなビーズを敷き詰められたクッションを用意することで自分好みの態勢での作業が可能になり家と同じもしくは家以上の空間が出来上がると考える。

イメージとしては図1の旅館のような感じである。



図1 内装のイメージ

期待される効果は、家と同じくらいかそれ以上に居心地が良い空間を作ることによってこれまで以上に利用したくなる図書館の実現が可能になると考える。また、椅子に座り長時間の作業や読書をするよりも時々に合わせて自分の楽な態勢に変えながらの方が集中できる時間も長くなり。もし、疲れたとしてもすぐに伸びたりゴロゴロしたりすることにより切り替えができ作業や読書が捗るのではないかと考える。